

2006年度春季大会の報告

2006年度春季大会は、つくば国際会議場（茨城県つくば市竹園2-20-3）を会場として2006年5月21日（日）～24日（水）に行われた。参加者数（前納登録者と当日受付者の合計）は912名（内訳は前納登録者652名、当日受付者260名）であった。

3日目午後には、つくば国際会議場大ホールにおいて総会が開かれ、三上正男氏と伊藤久徳氏に日本気象学会賞が、中村健治氏と牧原康隆氏に藤原賞が授与された。総会終了後、4名の受賞者による記念講演が行われた。1日目午後には、つくば国際会議場大ホールにおいて大会シンポジウム「異常気象に挑む一極端な降水現象の理解と予測を目指して」が行われた。シンポジウムは聴講無料で一般公開され、多くの聴衆の中で活発な討論が行われた。

今回はポスター及び口頭発表による一般講演と特定

のテーマに基づいてコンピーナーが編成する5つの専門分科会が行われた。一般講演の発表申込み件数は397件（内訳はポスターが236件、口頭発表が161件）、分科会は56件で計453件であった。

今大会から、業者委託による大会参加・講演申込のオンライン受付が導入された。申し込まれた講演は、郵送による4件を除きすべてオンラインによるものであった。

会期中およびその前日には、個別のテーマによる研究会が5件開かれた。

最後に、今大会実行委員会として大会準備・運営にご尽力頂いた気象研究所の皆様に深く感謝の意を表します。

2006年6月 講演企画委員会